

トマトキバガ情報第1号（トマト）

令和7年7月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

県内で広く発生を確認しています またフェロモントラップにおける誘殺数が増加しています

1 トマトキバガの発生状況

愛知県内の5地点に設置したフェロモントラップについて、昨年よりも早い時期から誘殺され、昨年同時期と比較して誘殺数が増加しています（図1）。また複数地点でトマト施設内での発生を確認しており、作終了時に被害を発見した事例もありました。

他県では熊本県及び大分県から注意報が発表されています。また、複数県で昨年よりも早い時期から誘殺され、昨年同時期と比較して誘殺数が増加しているとの報告があります。

今後、本虫の誘殺数の増加及び被害拡大が懸念されるため、栽培期間内の対策に加え、作終了時にも次作に向けた対策をしっかりと行いましょう。

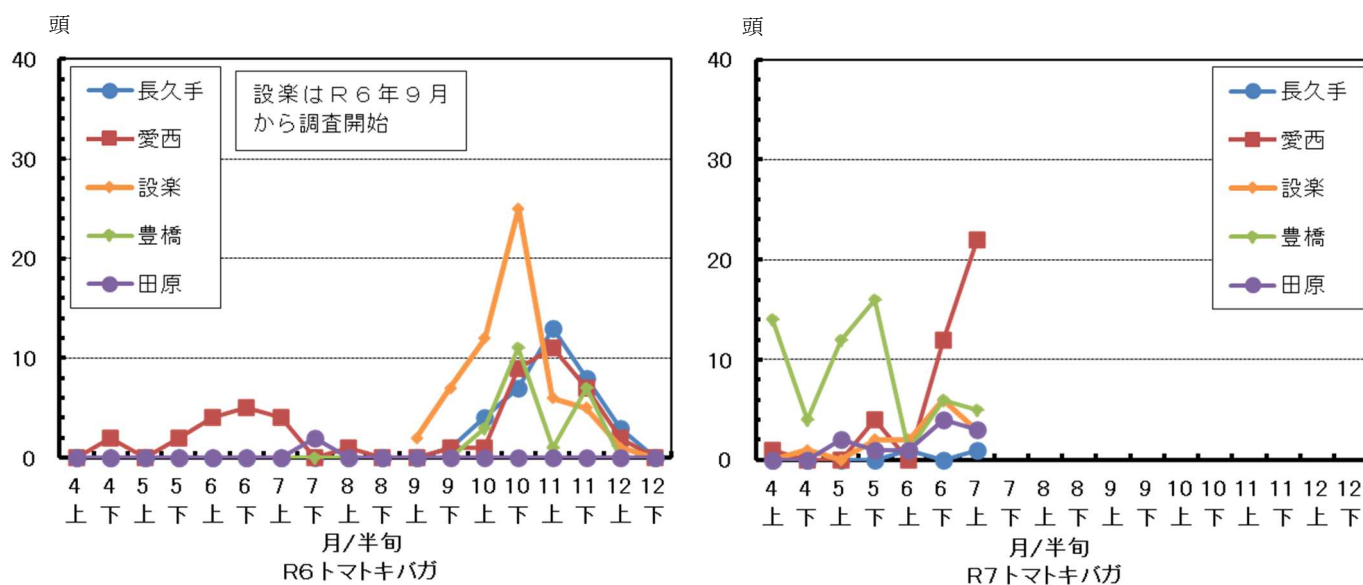


図1 フェロモントラップにおける誘殺数の推移（R6、R7）

2 防除対策

- (1) 施設栽培では、0.4mm目合いの防虫ネットを張ることが推奨されます。ネット等の破れやすき間は補修し、本虫の施設内への侵入を防ぎましょう。
- (2) 本虫はトマト苗も食害します。育苗期間中も適用のある薬剤で防除しましょう（表1）。
- (3) ほ場内をよく見回り、本虫や疑わしい被害葉及び果実（写真1～4）があった場合は、登録のある農薬で防除しましょう（表1）。薬剤感受性低下を防ぐため、同一系統（IRACコード）の薬剤を連続使用しないよう注意しましょう。
- (4) 本虫による被害葉及び果実はハウス周辺に放置せず、速やかに土中に深く埋却する

- か、ビニール袋で一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させたいうえで、適切に処分しましょう。また、収穫残渣も本虫の増殖源になり得るため注意しましょう。
- (5) 施設栽培において、作終了時はコナジラミ類防除を兼ねて一定期間施設を密閉し、両害虫を死滅させましょう。
- (6) ほ場で本虫を初確認した場合、最寄りの農業改良普及課または病虫害防除室（下記）へご連絡ください。

3 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話 0561-41-9513（ダイヤルイン）



写真1 トマトキバガ成虫（前翅長約5mm）
（農林水産省植物防疫所原図）



写真2 トマトキバガ終齢幼虫



写真3 トマトキバガによる葉の食痕

茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。



写真4 トマトキバガによる果実被害

果実表面に数 mm 程度のせん孔痕が生じるとともに食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下する。

表1 トマトキバガに登録のある農薬 令和7年7月16日現在

薬剤名	希釈倍率 または使用量	使用時期	使用回数	適用作物		IRAC コード
				トマト	ミニトマト	
ベリマークSC	薬量 400株当り25ml（灌注） （希釈水量 400株当り10～20L）	育苗期後半～定植当日	1回	○	○	28
プレバソンフロアブル5	100倍（灌注）	育苗期後半～定植当日	1回	○	○	
ブリロソソ粒剤オメガ	2g/株（株元散布）	育苗期後半～定植時	1回	○	○	
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	5
ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	ー, 5
アグリメック	500～1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○		6
アニキ乳剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	○	○	
エスマルクDF	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	－	○	○	11A
ゼンターリ顆粒水和剤	1,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	－	○	○	
チューンアップ顆粒水和剤	2,000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	－	○	○	
コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	13
トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		22A
ファイントリムDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○		
アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	22B
フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	28
ベネピアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
プレバソンフロアブル5	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	
グレースシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	30
ブレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	○	○	UN

成分ごとの総使用回数に注意する。

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は https://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。